

平成30年8月22日

中心市街地活性化推進本部 資料

新ホール整備事業について

1 検討状況

新ホール整備については、「徳島駅西側駐車場」を建設候補地として検討を進め、6月議会には、当候補地での平面検討図(案)のほか、概算事業費及び整備スケジュールを報告した。

その中で、概算事業費が高額であり、整備スケジュールも当初の想定を超える結果となったことから、専門家の意見を聞くなどしながら関係者と協議し、さらなる概算事業費の抑制や整備スケジュールの短縮等に向けた検討を進めるとともに、使いやすいホールであるかどうかについても、文化団体等へのヒアリングを行いながらあわせて検討し、当候補地での整備について総合的に判断することとした。

(1) 概算事業費(想定)の再検討

[当初] 約141億円(税込)
(内訳)

- ・ 建設工事費 約94億円
- ・ 土地整備費 約28億円
- ・ 土地費 約19億円



[再検討後] 約138億円(税込)
(内訳)

- ・ 建設工事費 約94億円
- ・ 土地整備費 約25億円
- ・ 土地費 約19億円

(理由) 土地整備費について、補償対象物件の移設経路を再考することにより削減した。

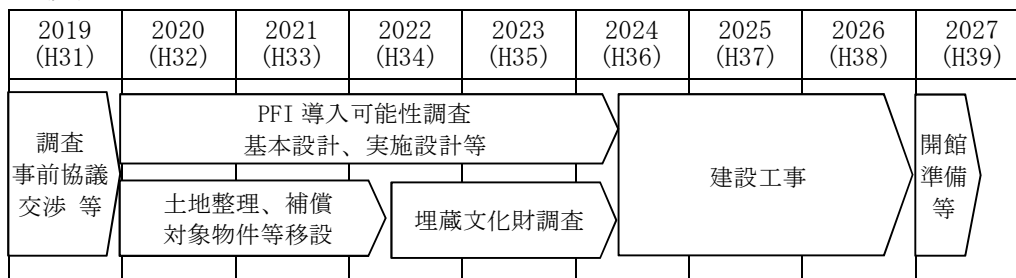
なお、PFI手法により整備した場合は、最近の整備事例を参考にすると初期投資(建設工事)についても一定割合(3~5%程度)の縮減効果の可能性が期待できると考えられる。

(2) 事業期間(想定)の再検討

[当初]



[再検討後]



(理由) 各工程の見直しにより1年程度短縮した。

2 文化団体等のヒアリング結果

(1) 期間

平成30年7月12日～8月9日

(2) 団体数等

過去に文化センターを利用していた団体、徳島市文化協会加盟団体など
20団体（ヒアリング16団体、アンケート回答のみ4団体）、26人

(3) 主な意見等

【現在の発表活動について】

- ・ 文化センター閉館後に他の施設を使うようになったが、安定的な会場確保が難しい。
- ・ 市外の会場で開催する場合は、集客の面で少なくなっている。
- ・ 市内の他施設の800席程度の規模では狭い。

【配置プラン（案）について】

- ・ 平面的に狭いので、使いにくい部分があると思われる。
- ・ 大ホールをきちんと整備することが必要である。（大ホールの規模は、団体等によって異なるが、多い場合で1,800席程度、少ない場合でも1,200席以上が必要という声が多い。）
- ・ 1,500席を状況に応じて1,000席や500～600席のホールとしても利用可能にしてほしい。
- ・ 200席程度の平土間リハーサル室兼用の小ホールでは狭い。
- ・ 小ホールも兼用ではなく固定席とし、単独で使用できるようにしてほしい。
- ・ 待合や時間の調整に使えるスペースがあり、空間的に余裕の感じられるホールにしてほしい。
- ・ 飲食や物販のスペースも必要である。
- ・ 複数団体が出演する大会を開催するのは難しい。
- ・ 団体受付や集合場所としては、エントランスやホワイエが狭いように感じる。
- ・ 出演者の動線について、上下階の移動はできるだけないほうがいい。
- ・ 楽器や大道具など機材搬入の動線の確保が必要である。
- ・ アーティストの入館で人目につかないルートを確保してほしい。
- ・ 駅西の敷地規模にすべての施設機能を盛り込むよりも、あわぎんホールやシビックセンターなど周辺の既存施設との機能分担により、大ホールを中心として機能を絞り込むべきである。

【敷地について】

- ・ 敷地と道路の関係や日影の規制など、土地の利用に関する制約が多い。
- ・ 周辺を建物に囲まれており、ホールとしてのランドマーク性に乏しい。
- ・ 公演を楽しむための気分の切り替えや、余韻を味わうための雰囲気をつくるエントランス部分の仕掛け、周辺の緑化など敷地周辺の余裕が必要である。

- ・ 敷地内に出演者や関係者用の駐車場は必要である。
- ・ 搬入口の近くもゆとりあるスペースが必要である。
- ・ 複数団体が出演するコンクールや大会では、多数の搬入トラックや送迎バスが出入するので、周辺交通への十分な配慮が必要となる。

【整備期間について】

- ・ ホール整備に今後10年かかることは、待てない人が多いだろう。
- ・ 徳島市内に1,000席以上規模のホールがない状況を早く解消してほしい。
- ・ 10年近く文化に触れる機会を無くすことは、子供たちの可能性を奪う。
- ・ 早く整備を進めないと、徳島市の文化の発展に影響が大きい。

【事業費について】

- ・ 土地整備や用地取得にかかる経費を少なくし、建物にお金をかける方がいい、建物以外の経費がかかりすぎである。

【その他】

- ・ 県庁所在地のホールとなるので、県市が協調して建設できないのか。
- ・ いいホールで演奏しないと、基本的なことが身につかず上達しない。
- ・ 出演者が演じやすく、観客が観やすく、主催者が使いやすいホールにしてほしい。
- ・ 市民の憩いの場となり、自慢できるホールにしてほしい。
- ・ 施設が充実すれば文化レベルも向上する。
- ・ ホール施設のない期間を埋めるための施設（新たなホールができるまでの仮ホールや代替的な施設）があればよい。
- ・ 短期的には代替施設の整備でしのぎ、その間に本格的なホール整備をじっくりと考えていくのも一つの方法ではないか。

3 検討結果等のまとめ

関係者との協議により、概算事業費については約3億円の抑制、整備スケジュールについては1年程度の短縮を図れる見通しとなったが、抜本的な見直しには至っていない。

また文化団体等からの意見でも、現在の配置プラン(案)では、1,500席の大ホール、幅10間の舞台や楽屋は確保できているものの、出演者の駐車場があまりなく、館内の出演者の動線についても上下階の移動を伴うリハーサル室の位置など、使い勝手の面から改善する余地があるとの多くの意見が出された。

そしてなにより一番の問題点は、開館まで10年近くかかるという整備スケジュールについてであり、文化団体等としては、とにかく現状で成果発表や公演の場がないことで活動に支障が出ており、市内に1,000席以上規模のホールがない状況を解消するため、1日でも早いホールの開館を望む声が大半であった。

4 今後の方針（案）

(1) 徳島駅西側駐車場での新ホール整備

徳島駅西側駐車場での新ホール整備は、徳島駅周辺のまちづくりや交通アクセスの利便性、公共交通の利用促進などの点から、建設候補地としてのメリットは大きいと考える。

しかしながら、事業費の抑制や整備スケジュールの短縮についてのこれまでの検討結果、文化団体などからのさまざまな意見を踏まえると、金額的には厳しく、また何よりも開館までの整備期間が長期にわたることは、市民や文化団体の理解も得られにくいと判断することから、「見直し」とする。

(2) 今後のホール整備の考え方

建設候補地については、徳島駅西側駐車場での新ホール整備を「見直し」と判断することにより、これまでの建設候補地検討会議等での議論を踏まえながら改めて検討することになる。

このため、ホール整備に関しては、次の方針とする。

文化センター閉館後、市民の文化芸術の発表の場や鑑賞の機会が減少しており、本市の文化振興における空白期間をできる限り短くする観点からも、事業費を抑制しつつ、早期の整備が期待できる文化センター敷地で新ホール整備を検討する。